

名古屋市南区におけるニホンジカ *Cervus nippon* の死亡個体発見

曾根 啓子

なごや生物多様性センター 〒464-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

Dead body found of sika deer *Cervus nippon* from Minami-ku, Nagoya city, central Japan

Keiko SONE

Nagoya Biodiversity Center, 230 Motoyagoto 5-chome, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-0066, Japan

Correspondence:

Keiko SONE E-mail: sonekei@hotmail.co.jp

要旨

2024年8月23日、名古屋市南区大同町の大江川緑地西側にある水門において、1頭のニホンジカ *Cervus nippon* が死亡しているのが発見された。この個体は1歳のメスであった。発見場所の周辺にはニホンジカの生息記録はなく、どのようにして死亡個体がこの場所に到達したのかは不明である。

はじめに

ニホンジカ *Cervus nippon* は、名古屋市内においては絶滅したと考えられていたが、2017年に市内北東部に位置する東谷山で再発見されて以降、市内での生息が確認されている(野呂・名和, 2018)。その一方で、東谷山を除き、市内の他の地域へニホンジカが進出したという報告はない。ところが今回、市内南部において死亡個体が発見されるという珍しい事例が発生したので、ここに報告する。

報告

2024年8月23日、南区大同町の大江川緑地の西側にある水門で、1頭のニホンジカが死亡しているのが発見された(図1)。発見の通報を受け、なごや生物多様性センターの職員が現地の確認と死亡個体の回収に赴いた(図2)。回収した個体について、高橋・上野(2006)を参考にして外部形態計測を行った。この個体はメスで、体重が32,800 g、胸囲が890 mm、ツメを含んだ後足長が426 mmであった。また、歯列の萌出・交換状況(Koike

and Ohtaishi, 1985) から、1歳と推定された。発見前に長時間水中に漬かっていたため、臓器の腐敗が進んでおり、死因となる所見を得ることは出来なかった。その後、骨格標本作製する目的で、頭部、前肢等、体の部位ごとに分割して除肉を行った。その際、右側の肋骨の大半が基部近くで折れているのが認められた。この骨折が生



図1. ニホンジカ死亡個体の発見場所。



図2. 死亡個体の発見から回収までの様子。

(a) 大江川緑地西側の水門（矢印が発見場所）、(b) 発見直後の個体、(c) 回収作業、(d) 回収した死亡個体（メジャーの長さは約1 m）。

前あるいは死後に起こったものなのかは判断できなかったため、直接の死因となったかどうかは不明である。また、そもそも今回の個体は、どのようにして市内南部の水門に到達したのかという疑問が残る。生存中に陸路で移動したルート、あるいは死後に水路伝いに流れてきたルートの二通りで考えてみたい。

まず、前者のルートとしては、発見場所から最も近い生息場所、市内であれば東谷山、市外であれば尾張旭市の東部や長久手市の東部、日進市の北東部（愛知県環境局環境政策部自然環境課，2022；日進市農政課農政振興

係，2024）であるが、ここから移動してきた可能性が考えられる。しかしながら、今回の発見場所とこれらの地域では、直線距離にして20 km以上の隔たりがあることに加えて、間には河川や幹線道路といった移動の妨げになる障壁がいくつも存在しており、ニホンジカの移動は極めて困難であると考えられる。また、万が一移動していた場合、ニホンジカのような大型の動物であれば、移動途中に目撃されてニュース等で報じられていてもおかしくないが、そのような話題は挙がっておらず、陸路を移動してきた可能性は極めて低いと考えられる。

一方、後者のルートは、水門の上流あるいは下流から死亡個体流れ着いたという想定である。大江川の上流は、大江川緑地下の暗渠を挟んで中井用水へと通じている。中井用水は市内南部（天白区・瑞穂区・南区）の丘陵地の水を集めて流下する河川であり、ニホンジカの生息地である市内北東部とは距離的な隔たりが大きい。一方、大江川の下流は2 km程で名古屋港に通じているため、港湾から潮流に乗って流されてきた可能性も考えられる。しかしながら、港湾周辺部の市内はもとより、南部に位置する知多半島方面にはそもそもニホンジカが生息していないため、このルートで死亡個体流れ着いたとは到底考えられない。

以上、陸路・水路の両ルートについて検討したものの、いずれも今回の死亡個体の発見を説明する合理的な解釈には至らなかった。したがって、今回の事例は、何らかの理由（例えば、別の場所でロードキルに遭った個体が遺棄されたなど）で起こった突発的な事例であり、この地域でのニホンジカの生息を示すものではないと考えられた。

謝辞

ニホンジカの回収にご協力をいただきました、名古屋港管理組合の方々に感謝申し上げます。

引用文献

- 愛知県環境局環境政策部自然環境課. 2022. 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ管理）. 愛知県環境局環境政策部自然環境課. 名古屋, 35pp.
- Koike, H. and N. Ohtaishi. 1985. Prehistoric hunting pressure estimated by the age composition of excavated sika deer (*Cervus nippon*) using the annual layer of tooth-cement. *Journal of Archaeological Science*, 11: 443-456.
- 日進市農政課農政振興係. 2024. 令和6年度日進市第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）管理計画. 日進市農政課農政振興係, 日進, 11pp.
- 野呂達哉・名和 明. 2018. 名古屋市内で再発見されたニホンジカ *Cervus nippon* Temminck, 1838. 名古屋の生物多様性, 5: 117-118.
- 高橋裕史・上野真由美. 2006. 保定から放逐まで－調査作業－. 梶 光一・高橋裕史（編）. ニホンジカ捕獲ハンドブック, pp.58-64. 北海道環境科学研究センター・独立行政法人森林総合研究所北海道支所, 札幌.